

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	鹿児島純心女子大学
設置者名	学校法人鹿児島純心女子学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
国際人間学部	ことばと文化学科	夜・通信		2	12	14	13	
	こども学科	夜・通信			11	13	13	
看護栄養学部	看護学科	夜・通信		3	10	13	13	
	健康栄養学科	夜・通信			10	13	13	
人間教育学部	教育・心理学科	夜・通信			13	13	13	
(備考) 国際人間学部ことばと文化学科及びこども学科は、平成31年度学生募集を停止、当該学部(学科)の募集停止に伴い、人間教育学部 教育・心理学科を開設。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/cat-topics/9525/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	鹿児島純心女子大学
設置者名	学校法人鹿児島純心女子学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.k-junshin.ac.jp/gakuen/about/pdf/hojin_list_r030401.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	R3.4.1～ R7.3.31	財務
非常勤	弁護士	R3.4.1～ R7.3.31	法務
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	鹿児島純心女子大学
設置者名	学校法人鹿児島純心女子学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

○授業計画書(シラバス)の作成過程/公表時期

授業科目は、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)について、「令和3年度シラバスについて」に示すとおり、以下の日程で作成し公表している。

科目毎に大学HPから検索して閲覧が可能。

	作成過程	時期(期間)
1	講義確認	11月17日(火)～11月25日(水)
2	シラバス編集、提出	11月30日(月)～1月15日(金)
3	第三者チェック①	1月18日(月)～2月1日(月)
4	シラバス修正①	2月2日(火)～2月8日(月)
5	第三者チェック②	2月10日(水)～2月17日(水)
6	シラバス修正②	2月18日(木)～2月24日(水)
	シラバスの確定処理	3月1日(月)～3月5日(金)
8	シラバス公開	3月18日(木)

授業計画書の公表方法	https://lcb.kjunshin.ac.jp/ext_syllabus/syllabusSearchDirect.do?nologin=on
------------	---

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

○単位修得の認定方法については、「単位認定規程」及び学部・学科毎の「履修規程」により、単位修得の認定を行っている。

・成績評価は、科目担当者において筆記試験の他、レポート・発表、実技の成果、平素の成績などにより行われ、評価方法はシラバスに明示されている。

科目の評価は100点満点とし、成績60点以上を合格、60点未満を不合格とする。評価の明示は、以下のとおり。

100点～90点：秀

89点～80点：優

79点～70点：良

69点～60点：可

59点以下：不可（不合格）

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

【GPA制度について】

履修科目ごとの成績(得点)に対して、GP(グレード・ポイント)を付与し、その単位当たりの平均値をGPA(グレード・ポイント・アベレージ)とします。

成績評価	得点	GP
秀	90 ~ 100	4.0 ~ 5.0
優	80 ~ 89	3.0 ~ 3.9
良	70 ~ 79	2.0 ~ 2.9
可(本試験合格)	60 ~ 69	1.0 ~ 1.9
可(再試験合格)	合	1.0
不可(欠席・失格)	0 ~ 59	0

○GPAの適用学生について

平成26年度入学生より得点に基づくGPに変更し、GPAを算出します。

① 算出方法について

GPAの算出方法は、次のとおりです。また、算出された数値の小数点第3位以下は四捨五入して第2位までとします。

【GPA = (履修科目のGP × 単位数) ÷ 履修科目の総単位数】

◆算出例

$$\frac{3.3 \times 2 + 4.5 \times 2 + 2.7 \times 1 + 4.0 \times 2 + 0 \times 1 + 1.5 \times 2 + 0 \times 2}{2 + 2 + 1 + 2 + 1 + 2 + 2} = \frac{29.3}{12} \Rightarrow 2.44$$

② 算出期間について

a. 学期

学期(前期・後期)ごとの対象科目で算出します。通年科目は、終了した学期に算入します。また、入学後5年目以降の対象科目は、過年度分として一括で算出します。

b. 学年

1年次、2年次、3年次、4年次の各年次の対象科目で算出します。

c. 通算

入学時から対象となる全ての科目で算出します。

・その他、成績の指標となるGPAに関することは、履修要項の履修一般に示されており、学生便覧で公表。

【GPAによる成績の分布状況の把握】

(<https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/dcms/wp-content/uploads/2020/06/437a894288f62f54905220e2a1d136ef.pdf>)

客観的な指標の算出方法の公表方法	(https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/disclosure/) (https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/dcms/wp-content/uploads/2019/07/030301gpa.pdf)
------------------	--

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

○卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を定め、学生便覧及び大学 HP 等で公表。

○卒業は、学則第 42 条及び学部履修規程(人間教育学部履修規程第9条、看護栄養学部規程看護学科第4条及び健康栄養学科4条、国際人間学部履修規程ことばと文化学科第3条及びこども学科第3条)に定める(卒業要件)を満たし、各学科・学部の卒業判定により認定される。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/about/policy/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	鹿児島純心女子大学
設置者名	学校法人鹿児島純心女子学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.k-junshin.ac.jp/gakuen/pdf/R02report.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.k-junshin.ac.jp/gakuen/pdf/R02report.pdf
財産目録	https://www.k-junshin.ac.jp/gakuen/pdf/R02report.pdf
事業報告書	https://www.k-junshin.ac.jp/gakuen/pdf/R02report.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.k-junshin.ac.jp/gakuen/pdf/R02report.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/about/jihee/ https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/dcms/wp-content/uploads/2017/01/975a0a8f9ffc003504f176b1f4b92ac8.pdf

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 国際人間学部 ことばと文化学科
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/about/policy/) (概要) 教育の目的 本学は、教育理念と建学の精神に基づき、豊かな人間性に裏打ちされた高い知性と専門性をそなえた女性の育成、すなわち「いのちを育む知性と愛」を一人ひとりの学生のうちに育み、以下の(1)～(3)の人間像を目指すことを教育目的とする。 (1) 優しさと清らかさ、謙虚さと豊かな教養を持った女性 (2) 自ら考え、社会において責任をもって行動できる自立した女性 (3) 地球市民として、社会に貢献できる広い視野を持った女性 そして、このような教育目的を日々実践するために、「マリアさまいやなことは私がよるこんで」という江角ヤス先生のことばを学園標語としている。 教育の特色 本学は、高等教育機関としての水準の向上に努めつつ、多様な職業に対応できる人材の育成を図るとともに、高度な専門的職業人を目指す。そして、そうした専門教育の基盤となる総合的教養教育を強化し、豊かな人間性の育成に努める。 このためカリキュラムの基本は、豊かな人間性を培うための「基礎教育科目」と、自他の真の幸せのために与えられた能力を十分に伸ばし、社会に貢献できる高いレベルの「専門教育科目」の二つの柱がある。 また、地域の生涯学習の拠点として、教育と研究の一体化を図り、産学連携、国際交流、地域貢献の拡充に努める。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/dcms/wp-content/uploads/2017/01/55aeba1c3cf125014812e481ba03f8dc.pdf) (概要) 1. 知識・理解 1) 日本と外国の言語・文化に関する専門的知識および技能を身につけている。 2) 幅広い教養によってはぐまれた豊かな人間性と社会性を持ち、グローバル化の進む現代において文化の多様性を理解・尊重できる。 2. 汎用的技能 1) 自分と異なる他者の考えを認め、高度なコミュニケーション力をもって人間関係を形成し発展させることができる。 2) 幅広い教養と深い専門的知識をもって課題を自ら発見し、多角的視野からの分析・判断をもとに問題を解決する能力を有する。 3. 態度・志向性 1) 自律的生活態度を身につけ、主体的に地域・国際社会で他者と協働する姿勢を有する。 2) 自己・他者・社会に関心を持ち、自発的学習を続けることで自らを成長させ社会に寄与する姿勢を有する。 4. 総合的な学習経験と創造的思考力 1) 多様な科目履修と教室外活動により培われた国際性豊かな人間力をもって、地域・国際社会に主体的に関与し、他者との協働を通して社会の一翼を担っているという意識を持っている。 2) 培われたコミュニケーション能力と多角的判断力をもって課題に柔軟に対応し、地域・国際社会のニーズに応える能力を有する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/dcms/wp-content/uploads/2017/01/55aeba1c3cf125014812e481ba03f8dc.pdf)

<p>(概要)</p> <p>ことばと文化学科は4つのコースで構成されており、コースごとに必修科目や選択必修科目が異なる編成でそれぞれの専門性を高め、また同時にコース横断的に配置した科目を学生が興味・関心に応じて選択できるようにカリキュラムを編成する。</p> <p>1) 1年次から4年次まで少人数教育を基本とし、学年を追うごとに基礎的内容から発展的内容へと学びを深めていけるように段階的かつ体系的に教育課程を編成する。</p> <p>2) 各コースの専門性を充実させ、一方でコース間の有機的連携を通して幅広く深い教養や国際的・多角的視野を育成し、統合的な判断力を培う。</p> <p>3) 語学、言語、文学および文化科目をバランス良く配置することで、専門的知識と高度な技能を身につけることができるようにする。</p> <p>4) 授業内外で地域と連携した体験型学習を積極的に取り入れ、知識・技能の向上はもとより対人スキル、社会性、判断力、問題解決力などの養成も図る。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/dcms/wp-content/uploads/2017/01/55aeba1c3cf125014812e481ba03f8dc.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>1) 高等学校で学習する科目について高等学校卒業相当の知識・技能を有する人</p> <p>2) 日本と外国の言語・文化に興味・関心を持ち、学ぶ意欲のある人</p> <p>3) 日本語や外国語を用いたコミュニケーション能力を高める意欲を持ち、的確な判断力や表現力を用いて円滑な人間関係を築ける人</p> <p>4) 言語や文化に関して多角的な視点から考えようという意欲のある人</p> <p>5) 基本的な生活習慣を身につけ、主体的に他者と協調して様々な活動が行える人</p> <p>6) 知的好奇心に富み、学習意欲旺盛な人</p> <p>7) 国際交流や地域活動に興味・関心があり、積極的に取り組む意欲のある人</p> <p>8) 物事に対していろいろな見方があることを理解し、異なる考えも受け入れられる人</p>
<p>学部等名 国際人間学部 こども学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/about/policy/)</p>
<p>(概要)</p> <p>教育の目的</p> <p>本学は、教育理念と建学の精神に基づき、豊かな人間性に裏打ちされた高い知性と専門性をそなえた女性の育成、すなわち「いのちを育む知性と愛」を一人ひとりの学生のうちに育み、以下の(1)～(3)の人間像を目指すことを教育目的とする。</p> <p>(1) 優しさと清らかさ、謙虚さと豊かな教養を持った女性</p> <p>(2) 自ら考え、社会において責任をもって行動できる自立した女性</p> <p>(3) 地球市民として、社会に貢献できる広い視野を持った女性</p> <p>そして、このような教育目的を日々実践するために、「マリアさまいやなことは私がよるこんで」という江角ヤス先生のことばを学園標語としている。</p> <p>教育の特色</p> <p>本学は、高等教育機関としての水準の向上に努めつつ、多様な職業に対応できる人材の育成を図るとともに、高度な専門的職業人を目指す。そして、そうした専門教育の基盤となる総合的教養教育を強化し、豊かな人間性の育成に努める。</p> <p>このためカリキュラムの基本は、豊かな人間性を培うための「基礎教育科目」と、自他の真の幸せのために与えられた能力を十分に伸ばし、社会に貢献できる高いレベルの「専門教育科目」の二つの柱がある。</p> <p>また、地域の生涯学習の拠点として、教育と研究の一体化を図り、産学連携、国際交流、地域貢献の拡充に努める。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/dcms/wp-content/uploads/2017/01/3e23815e3b218c528a59bb384119b3bb.pdf)</p>

<p>(概要)</p> <p>1. 知識・理解</p> <p>1) 保育学・教育学・福祉学・心理学・基礎医学・民俗学などを包括する学際的な学問分野である「こども学」に関する専門的知識及び技能を持っている。</p> <p>2) 時代の変化を敏感に察知し、こどもに関する問題意識を持ち続けることができる。</p> <p>2. 汎用的技能</p> <p>1) 専門性を深めながら、その成果を伝えるための自己表現力やコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>2) 時代の変化に適切に対応し、多角的な視点から問題を解決するための情報収集及び分析能力を有している。</p> <p>3. 態度・志向性</p> <p>1) 高い倫理観にもとづき多様な価値観を認め、人に誠実に接することができる。</p> <p>2) 他者と協働しながらチームとして問題を解決することができる。</p> <p>4. 総合的な学習経験と創造的思考力</p> <p>1) 多様な科目履修及び実習や地域と連携した活動を通して磨かれた実践力を社会で活かすことができる。</p> <p>2) 自分の世界観を構築し、多様な価値を認め、柔軟な姿勢で他者を援助できる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/dcms/wp-content/uploads/2017/01/3e23815e3b218c528a59bb384119b3bb.pdf）</p>
<p>(概要)</p> <p>保育学・教育学・福祉学・心理学・基礎医学・民俗学などを包括する学際的な学問分野としての「こども学」を学修できるよう、総合的なカリキュラムを編成する。</p> <p>1) 少人数教育を基本として、学年を追うごとに基礎的な内容から、発展的内容へと進む段階的なカリキュラムを編成する。</p> <p>2) 「こども学への導入」を目的とした専門教育科目によって、初年次から基礎的な内容の理解と同時に、早い段階から体験型学習を積み、実践力を高めることができるようなカリキュラムを編成する。</p> <p>3) 「こどもと社会の領域」「こどものこころの領域」「こどもと健康の領域」「こどもと教育の領域」といった幅広い領域の専門教育科目を履修できるようにカリキュラムを編成し、興味・関心を広げ生涯学び続ける態度を培う。</p> <p>4) 「実践力を高める領域」及び「こども学の実践」に関する科目を充実させ、地域と連携した体験的・実践的学習を積極的に取り入れる。知識・技能の向上はもとより対人スキル、社会性、判断力、問題解決力などの養成も図る。</p> <p>このようにこども学の学際的な知識と実践力、さらに知の生産としての研究技術を包括的に学ぶことができるカリキュラムを編成する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/dcms/wp-content/uploads/2017/01/3e23815e3b218c528a59bb384119b3bb.pdf）</p>
<p>(概要)</p> <p>1) 様々な専門的知識を学ぶ意欲があり、コミュニケーションを図るために十分な基礎学力を有する人</p> <p>2) 人間と社会に興味・関心を持ち、学ぶ意欲のある人</p> <p>3) コミュニケーションに必要な自分を表現する力や相手を理解しようとする力を備えている人</p> <p>4) 自分の問題と社会の問題を関連づけて考えることができる人</p> <p>5) 向上心を持ち、積極的に探究する意欲がある人</p> <p>6) 奉仕の精神で労力を惜しまない人</p> <p>7) 社会活動に興味があり、積極的に人と関わろうとする人</p> <p>8) 物事に対していろいろな見方があることを理解し、異なる考えも受け入れようとする人</p>

学部等名 看護栄養学部 看護学科
<p>教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/about/policy/)</p> <p>(概要)</p> <p>教育の目的</p> <p>本学は、教育理念と建学の精神に基づき、豊かな人間性に裏打ちされた高い知性と専門性をそなえた女性の育成、すなわち「いのちを育む知性と愛」を一人ひとりの学生のうちに育み、以下の(1)～(3)の人間像を目指すことを教育目的とする。</p> <p>(1) 優しさと清らかさ、謙虚さと豊かな教養を持った女性 (2) 自ら考え、社会において責任をもって行動できる自立した女性 (3) 地球市民として、社会に貢献できる広い視野を持った女性</p> <p>そして、このような教育目的を日々実践するために、「マリアさまいやなことは私がよるこんで」という江角ヤス先生のことばを学園標語としている。</p> <p>教育の特色</p> <p>本学は、高等教育機関としての水準の向上に努めつつ、多様な職業に対応できる人材の育成を図るとともに、高度な専門的職業人を目指す。そして、そうした専門教育の基盤となる総合的教養教育を強化し、豊かな人間性の育成に努める。</p> <p>このためカリキュラムの基本は、豊かな人間性を培うための「基礎教育科目」と、自他の真の幸せのために与えられた能力を十分に伸ばし、社会に貢献できる高いレベルの「専門教育科目」の二つの柱がある。</p> <p>また、地域の生涯学習の拠点として、教育と研究の一体化を図り、産学連携、国際交流、地域貢献の拡充に努める。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/dcms/wp-content/uploads/2020/05/f0edb41068f3cfbb8983a6ad1f4031de.pdf)</p> <p>(概要)</p> <p>本学科では学則で定める卒業に必要な単位数を取得することが学士号授与の要件となる。また、卒業までに次の4つの力を有することを重視する。</p> <p>1. 知識・理解 ・対象を全人的にとらえる基本的能力 : 人間を様々な側面を持つ存在として健康の視点から包括的にとらえるための基本的能力</p> <p>2. 汎用的技能 ・看護者としての実践力 : 人々の健康課題に対応でき、科学的根拠に基づいた看護を実践しうる能力</p> <p>3. 態度・志向性 ・豊かな人間力 : 人間の尊厳や倫理の意味を理解した上で、あらゆる対象者を理解し援助関係を形成する力 ・多職種と連携する力 : 保健・医療・福祉・教育の領域において多職種と連携、協働しながら看護を展開、充実させる能力</p> <p>4. 総合的な学習経験と創造的思考力 ・専門性を発展させる力 : 自己啓発能力と研究的態度を身につけ、社会の動向に関心をもち、看護の専門性を発展させる能力</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/dcms/wp-content/uploads/2020/05/f0edb41068f3cfbb8983a6ad1f4031de.pdf)</p>

<p>(概要)</p> <p>本学科の教育課程はディプロマポリシーに基づき、以下の5つの領域で編成する。</p> <p><人間的成長を促す領域></p> <p>この領域は、「看護の精神」「女性発達学」「プロジェクトJ」の3つの分類からなり、個人としての成長と生涯学習の基盤づくりとなるものである。</p> <p><情報を活用し表現力を高める領域></p> <p>この領域は、「情報技術」「表現技術」の2分類からなり情報化と国際化が進む社会の中で人とコミュニケーションできる力を育成するものである。</p> <p><看護の軸となる領域></p> <p>この領域は、「人間の発達」「健康の科学」「生活の支援」の3つの分類を絡みあわせながら看護の軸を形成していくものである。</p> <p><看護の基盤となる領域></p> <p>この領域は「ヒューマンケアリング」「社会・倫理・制度」「看護論」「看護技術」の4つの分類からなり、看護学の基盤となる考え方や態度を育成するものである。</p> <p><実践力を発揮する領域></p> <p>この領域は「実践看護学」「看取りの看護」「看護トピック」の3つの分類からなり、看護職者として、健康の回復だけではなく人生の最期をも視野に入れた看護が実践できる力を養うものである。また、卒業後も自ら研鑽しながら看護実践力を高めていく素地を養うものである。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/dcms/wp-content/uploads/2020/05/f0edb41068f3cfbb8983a6ad1f4031de.pdf）</p>
<p>(概要)</p> <p>本学科では次のような人を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自ら学ぶ意欲のある人 2. 看護学を学ぶのに必要な基礎学力を有する人 3. 人に対する関心があり、人と人とのかかわりを大切にできる人 4. 人間の尊厳を考えることができる人 5. 社会の出来事に対し関心を寄せ、自分の考えが持てる人
<p>学部等名 看護栄養学部 健康栄養学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/about/policy/）</p>
<p>(概要)</p> <p>教育の目的</p> <p>本学は、教育理念と建学の精神に基づき、豊かな人間性に裏打ちされた高い知性と専門性をそなえた女性の育成、すなわち「いのちを育む知性と愛」を一人ひとりの学生のうちに育み、以下の(1)～(3)の人間像を目指すことを教育目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 優しさと清らかさ、謙虚さと豊かな教養を持った女性 (2) 自ら考え、社会において責任をもって行動できる自立した女性 (3) 地球市民として、社会に貢献できる広い視野を持った女性 <p>そして、このような教育目的を日々実践するために、「マリアさまいやなことは私がよろこんで」という江角ヤス先生のことばを学園標語としている。</p> <p>教育の特色</p> <p>本学は、高等教育機関としての水準の向上に努めつつ、多様な職業に対応できる人材の育成を図るとともに、高度な専門的職業人を目指す。そして、そうした専門教育の基盤となる総合的教養教育を強化し、豊かな人間性の育成に努める。</p> <p>このためカリキュラムの基本は、豊かな人間性を培うための「基礎教育科目」と、自他の真の幸せのために与えられた能力を十分に伸ばし、社会に貢献できる高いレベルの「専門教育科目」の二つの柱がある。</p> <p>また、地域の生涯学習の拠点として、教育と研究の一体化を図り、産学連携、国際交流、</p>

<p>地域貢献の拡充に努める。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/dcms/wp-content/uploads/2020/05/f3cf64e4064e550aff98c61030e33ccf.pdf）</p>
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康の保持・増進、疾病の予防・治療に必要な栄養に関する基礎的な知識を修得している 2) 人々を取り巻く環境に関心を持ち、社会の中における自らの専門分野の意義と位置づけを理解している 2. 汎用的技能 <ol style="list-style-type: none"> 1) 専門的な知識を活かし、食と健康に関する課題を科学的・論理的に把握・分析し、人々を健康に導く方向性を示すことができる。 2) コミュニケーションスキルを身につけ、他職種と協調性を持って課題の解決に向けた連携を図ることができる 3. 態度・志向性 <ol style="list-style-type: none"> 1) 豊かな人間性と倫理感を身につけ、積極的に物事に取り組む姿勢がある 2) 食と健康の専門家として、自らの果たす役割を自覚し、人々のQOL向上に貢献する意欲がある 4. 総合的な学習経験と創造的思考力 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域社会において、これまでに獲得した知識・技能・態度を総合的に活用し、個人や集団の課題に柔軟性を持って対応できる 2) 常に新しい知識・技術を学ぶ意思を持ち、専門家として主体的に考え、自らの行動に責任をもって社会のために貢献できる
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/dcms/wp-content/uploads/2020/05/f3cf64e4064e550aff98c61030e33ccf.pdf）</p>
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 初年次教育として、本学科に必要な基礎化学、生命科学、生物有機化学の科目を配置している。 2. 専門教育は、基礎科目から専門科目へ学年を追って体系的に配置されている。専門教育科目は、講義を先に、実験・実習をその後に配置して、理論を基にして実践力を養成する。 3. 栄養教諭、家庭科教諭の受験資格およびフードサイエンティストの資格取得に必要な科目は、学科の学びの中で修得できる。 4. 教養科目に関しては、4年間をとおして教養科目を選択必修として卒業までの間に修得できるように配置している。 5. 学外実習として、臨地実習やインターンシップおよび海外研修をとおして、管理栄養士業務の実際を学び、実践力やコミュニケーション力を養う。 6. 基礎教育科目として、「純心講座」「キリスト教概論」および「人間の探求」を必須科目としてカトリック精神を伝え、豊かな人間性を育むための教育の一環としている。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/dcms/wp-content/uploads/2020/05/f3cf64e4064e550aff98c61030e33ccf.pdf）</p>
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知的好奇心に満ち溢れ、常に向上心をもって、食と健康に関する知識に興味・関心がある人 2. 栄養・医療・福祉に関する事柄を科学的・論理的に学ぶための基礎学力を備えた人 3. 多様な人々と協働できる基本的なコミュニケーション力のある人 4. 学んだ知識や技能をもとに、地域社会に貢献する意欲のある人

学部等名 人間教育学部 教育・心理学科
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/about/policy/）</p> <p>（概要）教育の目的</p> <p>本学は、教育理念と建学の精神に基づき、豊かな人間性に裏打ちされた高い知性と専門性をそなえた女性の育成、すなわち「いのちを育む知性と愛」を一人ひとりの学生のうちに育み、以下の（１）～（３）の人間像を目指すことを教育目的とする。</p> <p>（１）優しさと清らかさ、謙虚さと豊かな教養を持った女性 （２）自ら考え、社会において責任をもって行動できる自立した女性 （３）地球市民として、社会に貢献できる広い視野を持った女性</p> <p>そして、このような教育目的を日々実践するために、「マリアさまいやなことは私がよるこんで」という江角ヤス先生のことばを学園標語としている。</p> <p>教育の特色</p> <p>本学は、高等教育機関としての水準の向上に努めつつ、多様な職業に対応できる人材の育成を図るとともに、高度な専門的職業人を目指す。そして、そうした専門教育の基盤となる総合的教養教育を強化し、豊かな人間性の育成に努める。</p> <p>このためカリキュラムの基本は、豊かな人間性を培うための「基礎教育科目」と、自他の真の幸せのために与えられた能力を十分に伸ばし、社会に貢献できる高いレベルの「専門教育科目」の二つの柱がある。</p> <p>また、地域の生涯学習の拠点として、教育と研究の一体化を図り、産学連携、国際交流、地域貢献の拡充に努める。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/dcms/wp-content/uploads/2018/09/epolicy.pdf）</p> <p>（概要）</p> <p>１．知識・理解 教育学、保育学、心理学、言語・文化等に関する専門的知識及び技能を身につけ、学校教育を内外から支える力を有する。</p> <p>２．汎用的技能 高度なコミュニケーション力や多角的視野からの分析力・判断力を有し、多様性を受容する姿勢のもと、円滑な人間関係を形成し発展させることができる。</p> <p>３．態度・志向性 高い倫理観のもと、人に誠実に接することができ、他者と協働しながらチームとして問題を解決することができる。</p> <p>４．統合的な学習経験と創造的思考力 実習や地域と連携した活動を通して磨かれた実践力を、教育の場や社会の場で活かし、柔軟な姿勢で課題に対応することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/dcms/wp-content/uploads/2018/09/epolicy.pdf）</p> <p>（概要）</p> <p>教育・心理学科は、学科共通の「基礎教育科目」と「専門教育科目」をカリキュラムの大きな柱としている。</p> <p>「専門教育科目」は、「学科共通専門教育科目」および専攻・コースごとに定められた「専門教育科目」に分けられ、専攻やコースにより異なる編成でそれぞれの専門性を高め、また同時に「チーム学校」という学科コンセプトの下、教育と心理の領域を有機的に連携させ、学校教育を内外から支える人材の育成を目指した教育課程を編成する。</p> <p>１）基礎教育では、初年次教育として大学における学びの姿勢や方法を身につけるとともに、豊かな人間性と幅広い教養を涵養し、よりよく生きるための力の基盤をつくる教育課程編成とする。</p> <p>２）１年次から４年次まで少人数教育を基本に、学年を追うごとに基礎的内容から発展的内容へと学びを深めていけるように、段階的かつ体系的に教育課程を編成する。</p>

- 3) 専門教育の基盤をつくとともに、幅広い領域の科目履修を通して多角的視野や統合的的判断力を培うことを目的として、専門教育に「学科共通専門教育科目」を設ける。
- 4) 専門教育では、それぞれの専門に応じて教育、保育、心理、言語・文化科目をバランス良く配置し、学修することで、専門的知識と高度な技能を身につけることができるようにする。
- 5) 各専攻及びコースの専門性を充実させる一方で、教育と心理の領域を有機的に連携させ、学校教育を内外から支える知識・技術の修得ができる教育課程編成を行う。
- 6) 授業内外で領域と連携した体験型学習を積極的に取り入れ、知識・技能の向上はもとより、コミュニケーション能力、柔軟性、社会性、問題解決力等の向上・育成を図る。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/dcms/wp-content/uploads/2018/09/epolicy.pdf>）

（概要）

教育・心理学科は、学科共通の「基礎教育科目」と「専門教育科目」をカリキュラムの大きな柱としている。

「専門教育科目」は、「学科共通専門教育科目」および専攻・コースごとに定められた「専門教育科目」に分けられ、専攻やコースにより異なる編成でそれぞれの専門性を高め、また同時に「チーム学校」という学科コンセプトの下、教育と心理の領域を有機的に連携させ、学校教育を内外から支える人材の育成を目指した教育課程を編成する。

- 1) 基礎教育では、初年次教育として大学における学びの姿勢や方法を身につけるとともに、豊かな人間性と幅広い教養を涵養し、よりよく生きるための力の基盤をつくる教育課程編成とする。
- 2) 1年次から4年次まで少人数教育を基本に、学年を追うごとに基礎的内容から発展的内容へと学びを深めていけるように、段階的かつ体系的に教育課程を編成する。
- 3) 専門教育の基盤をつくとともに、幅広い領域の科目履修を通して多角的視野や統合的的判断力を培うことを目的として、専門教育に「学科共通専門教育科目」を設ける。
- 4) 専門教育では、それぞれの専門に応じて教育、保育、心理、言語・文化科目をバランス良く配置し、学修することで、専門的知識と高度な技能を身につけることができるようにする。
- 5) 各専攻及びコースの専門性を充実させる一方で、教育と心理の領域を有機的に連携させ、学校教育を内外から支える知識・技術の修得ができる教育課程編成を行う。
- 6) 授業内外で領域と連携した体験型学習を積極的に取り入れ、知識・技能の向上はもとより、コミュニケーション能力、柔軟性、社会性、問題解決力等の向上・育成を図る。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/disclosure-2/info-education-2/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
国際人間学部	—	3人	3人	1人	0人	0人	7人
看護栄養学部	—	12人	6人	11人	8人	5人	42人
人間教育学部	—	10人	7人	4人	0人	0人	21人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		人					人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/dcms/wp-content/uploads/2021/06/disclosure201.pdf					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
国際人間学部	—人	—人	—%	90人	48人	53.3%	—人	—人
看護栄養学部	85人	107人	125.9%	356人	402人	112.9%	8人	7人
人間教育学部	85人	42人	49.4%	255人	135人	52.9%	—人	5人
合計	170人	149人	87.6%	701人	585人	83.5%	8人	12人
(備考) 人間教育学部の編入学は、欠員の範囲。								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
国際人間学部	42人 (100%)	1人 (2.4%)	37人 (88.1%)	4人 (9.5%)
看護栄養学部	92人 (100%)	1人 (1.1%)	87人 (94.6%)	4人 (4.3%)
合計	134人 (100%)	2人 (1.5%)	124人 (92.5%)	8人 (6.0%)
(主な進学先・就職先)（任意記載事項） 国際人間学部卒業生の進路は学校教員や幼児教育が主である。看護栄養学部卒業生の進路は資格を活かした医療・福祉の分野が多い。				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
国際人間学部	45人 (100%)	38人 (84.4%)	6人 (13.3%)	1人 (2.2%)	0人 (0%)
看護栄養学部	85人 (100%)	84人 (98.8%)	0人 (0%)	1人 (1.2%)	0人 (0%)
合計	130人 (100%)	122人 (93.8%)	6人 (4.6%)	2人 (1.5%)	0人 (0%)
(備考) 国際人間学部の留年者数6人のうち3人は、海外の日本語教師ボランティア派遣(1年間)に参加。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 【様式第2号の3より再掲】

○授業計画書（シラバス）の作成過程/公表時期

授業科目は、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)について、「令和3年度シラバスについて」に示すとおり、以下の日程で作成し公表している。

科目毎に大学HPから検索して閲覧が可能。

	作成過程	時期 (期間)
1	講義確認	11月17日(火)～11月25日(水)
2	シラバス編集、提出	11月30日(月)～1月15日(金)
3	第三者チェック①	1月18日(月)～2月1日(月)
4	シラバス修正①	2月2日(火)～2月8日(月)
5	第三者チェック②	2月10日(水)～2月17日(水)
6	シラバス修正②	2月18日(木)～2月24日(水)
7	シラバスの確定処理	3月1日(月)～3月5日(金)
8	シラバス公開	3月18日(木)

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 【様式第2号の3より再掲】

○単位修得の認定方法については、「単位認定規程」及び学部・学科毎の「履修規程」により、単位修得の認定を行っている。

・成績評価は、科目担当者において筆記試験の他、レポート・発表、実技の成果、平素の成績などにより行われ、評価方法はシラバスに明示されている。

科目の評価は100点満点とし、成績60点以上を合格、60点未満を不合格とする。

評価の明示は、以下のとおり。

100点～90点：秀

89点～80点：優

79点～70点：良

69点～60点：可

59点以下：不可（不合格）

○卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を定め、学生便覧及び大学 HP 等で公表。

○卒業は、学則第 42 条及び学部履修規程(人間教育学部履修規程第9条、看護栄養学部規程看護学科第4条及び健康栄養学科4条、国際人間学部履修規程ことばと文化学科第3条及びこども学科第3条)に定める(卒業要件)を満たし、各学科・学部の卒業判定により認定される。

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
国際人間学部	ことばと文化学科	132 単位	有・無	48 単位
	こども学科	132 単位	有・無	— 単位
看護栄養学部	看護学科	125 単位	有・無	48 単位
	健康栄養学科	124 単位	有・無	48 単位
人間教育学部		124 単位	有・無	49 単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 :

<https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/dcms/wp-content/uploads/2021/06/disclosure103.pdf>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
国際人間 学部	ことばと文化学 科	600,000 円	0 円	450,000 円	実験実習寮、教育充実費、 図書館費
	こども学科	600,000 円	0 円	465,000 円	実験実習寮、教育充実費、 図書館費
看護栄養 学部	看護学科	800,000 円	350,000 円	570,000 円	実験実習寮、教育充実費、 図書館費
	健康栄養学科	600,000 円	300,000 円	495,000 円	実験実習寮、教育充実費、 図書館費
人間教育 学部	人間・教育学科	600,000 円	200,000 円	445,000 円	実験実習寮、教育充実費、 図書館費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要) 修学のための経済的支援として、大学独自の奨学金制度及び授業料減免制度を設けている。</p> <p>【鹿児島純心女子大学成績優秀者奨学金】 対象は成績、人物共に優秀な者。規定に定める採用者数は毎年第 1 学年次生若干名で、入学試験の結果に基づき選考の上、決定する。奨学金は、試験区分等により 10 万円から 30 万円を給付する。</p> <p>【鹿児島純心女子大学白百合奨学金】 対象は修学の熱意はありながら、経済的理由により修学が著しく困難と認められた者。規程に定める採用者数は、毎年 16 名以内で、必要書類等により選考し、決定する。奨学金は、月額 2 万円とし、前期分と後期分の 2 回に分けてそれぞれ 12 万円支給する。ただし、更新については、必要書類等の選考により決定し、原則として 1 回限りとする。</p> <p>【鹿児島純心女子大学外国人留学生特別奨学金】 対象は入学を許可された外国人留学生で、人物・学業ともに優れ、経済的理由により修学に困難があると認められる者。必要書類により選考、決定する。学業地に滞在することを条件として、月額 30,000 円を該当月に支給する。</p> <p>【鹿児島純心女子大学私費外国人留学生授業料等減免】 対象は大学の正規課程に在籍する私費外国人留学生で、経済的理由により修学が困難であると認められた者。必要書類により選考、決定する。授業料等の減免額は、入学金の全額と授業料の 50%とする。</p> <p>【学校法人鹿児島純心女子学園 姉妹在籍による授業料給付】 対象は、当学園の設置する大学院・大学各学部・短期大学各学科・高等学校・中学校に同時に在籍する姉妹が 3 名となった場合の最年少者 1 名で、必要書類による申請に基づいて決定し、給付する。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>4 年間の大学生活を通して本学の理念である「企業や職場の求める感性豊かで人間力のある人材育成」が可能であること。次に確かな目的意識を持って自分の夢を実現するために邁進する学生を細やかに支援するキャリア形成システムがあること。そして、後援会の全面的な支援のもとで行われる、教職員と一体化した組織的で懇切丁寧な就職・進学の相談体制が整っていること。この 3 本柱で学生をバックアップし、就職・進学に対して不安を感じることなく、自信を持って臨むことができます。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

学生生活がより意義深く、豊かに送れるように、保健室では、健康管理に役立つ情報を提供するとともに、心身の健康に関する相談に対応している。また、心理的・精神的側面から援助するために学生相談室（ゼミ・研究棟1階）があり、様々な悩みや不安に関して学生相談員が対応（メールによる相談可）している。相談を受けたことや内容について無断で外部にもらすことはないので、安心して相談できる。必要に応じて専門家を紹介している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/disclosure-2/>

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	鹿児島純心女子大学
設置者名	鹿児島純心女子学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		84人	78人	162人
内 訳	第Ⅰ区分	42人	37人	
	第Ⅱ区分	26人	26人	
	第Ⅲ区分	16人	15人	
家計急変による支援対象者（年間）				－
合計（年間）				85人
(備考) 家計急変支援対象者のうち1名は、前半期第Ⅲ区分支援対象者でもあるが、前半期の支援対象者には含めていない。				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、高等 専門学校（認定専攻科を含む。）及 び専門学校（修業年限が2年以下の ものに限る。）			
修業年限で卒業又は修了 できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が標準単位数 の5割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の5割以下)	0人	人	人
出席率が5割以下その他 学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に 連続して該当	0人	人	人
計	0人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、高等 専門学校（認定専攻科を含む。）及び専 門学校（修業年限が2年以下のもの に限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）
の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	—	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	—	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。